

相乗りタクシーによる交通インフラ問題の解決

～Shareable! Sittable! Comfortable!!!～

Solving Transportation Infrastructure Problems Through Shared-ride Cabs

-Shareable! Sittable! Comfortable!!!-

グループ：護送船団方式

川浦大輔 藤田結衣 菅藤万葉 日吉拓哉 横松妙美 渡邊香峰 中島弘
指導教員 中山雅司

創価大学 法学部 法律学科 中山ゼミナール

キーワード：相乗りタクシー、柔軟性、利便性、新しい交通手段、SDGs11

1. はじめに

現在、八王子市の市民にとって主要な移動手段はバスである。しかし、通学ラッシュ時の混雑により交通渋滞が発生し、またバスの乗車率が高く乗り切れない、乗っていても身動きがとれない等の事態も発生している。これにより不便を感じるだけでなく健康被害にも繋がる。リスクとして疲労・ストレス増加による生活習慣病リスクや伝染病や風邪にかかるリスクが増加するため「しょうがない」では済まされない健康リスクがあるといえる。この課題を解決すべく、より柔軟で利便性の高い移動手段を提供する提案を行う。

2. 現状分析

八王子市内では、路線バスをはじめとした交通網が発達している。現在八王子市内では、京王電鉄バスなどをはじめとした 4 事業者が運行し、西東京バスの 1 日あたりの平均乗車数は約 14 万人となっている（八王子市 2022）。

しかし、市政世論調査報告書によれば、バスの本数やバス停の位置などを理由に、通学、通勤者の約 7 割もの人が交通手段を利用するときに不満を感じたことがあると回答した（八王子市 2011）。

これらをふまえ、私たちは八王子交通事業(株)にインタビューを行った。回答では、タクシーの稼働台数は平日は 50～60 台、休日は 30 台とのことであるが、利用者の

少なさから稼働していない車両が発生しており、余った車両は営業所にあることから、それを他のサービスに展開していくことに前向きだという回答が得られた。実際に幼稚園や老人ホームと連携し送迎サービスを行っており、シェアライドについても前向きである。

図 1 タクシー輸送人員の推移（八王子市 2017）

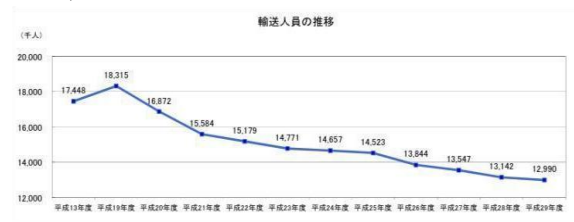


図 2 代表的な交通手段の変化（八王子市 2012）

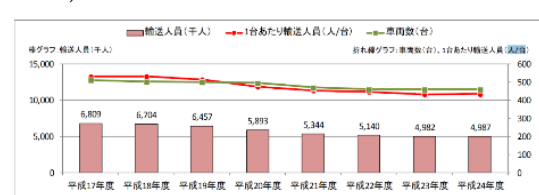


図 40 タクシー利用者数等の推移

出典：八王子市「統計八王子」

3. 提案

現状を踏まえ、私たちは余剰のタクシー車両を有効活用するため、「相乗りタクシーサービス」の導入を提案する。タクシー会社と民間企業、八王子市の3アクターで行う。各タクシー会社は配車、民間企業は配車システムの開発と運営を行い、市には補助金の検討をお願いしたい。今回はWILLER 株式会社提供している mobi を参考にする。mobi は、30 日間エリア内定額乗り放題の相乗り交通サービスであり、現在全国の 16 地点でサービスを提供している。本提案のシステムの機能としては、配車予約・車両位置の確認・到着時間予測を導入したい。料金に関しては月額定額制の導入を考えており、月額 5000 円前後を目安にしたい。この金額は mobi で行われたアンケートにおいて「安い・妥当」だと答えた人の割合が 50%ほどであった金額設定である。他にも一回乗りも可能にし、1 回 500 円ほどに設定し乗降車時に支払えるようにすることで少ないニーズにも応えることができると考える。

第一段階として、対象者と目的地を八王子市の大学とその学生に限定した試験運用を行う。出発地点は自由で同じ目的地に向か乗客がいる場合、相乗りを行う。そして乗客のフィードバックをもとに、サービスの改善、アプリの機能追加、エリアの拡大を行い、新たな層への訴求を目指す。

4. 総括

私たちの「相乗りタクシーサービス」の導入する提案は、交通手段の選択肢を拡充し、市民の交通不満や健康リスクができると考える。また、本提案は八王子未来デザイン 2040 の「行きたい時に、行きたいところへ簡単にアクセス」できる都市像に合致する。

ライドシェアをめぐって、運転手不足や観光客急増に伴い、タクシー不足が課題となる中、一般ドライバーが自家用車で乗客を有償で運ぶ「ライドシェア」、いわゆる「白タク」解禁の是非を巡る議論が活発化している。この動きに対し、競争の公平さや安全性を懸念するタクシー業界は神経をとがらせている。しかし、タクシーやバス

などの公共交通機関は、道路運送法に基づく事業許可を持ち、運行と運転者の雇用に責任を負い、輸送の安全を確保している。タクシーは事業許可を取得し、ドライバーは二種免許を持つため、安心して利用できるという利点がある。この安全性は、タクシーサービスの利用において非常に重要である。

タクシーの効率的な配車システムに関して、既存のアプリを進化させ、AI などを活用した新しい相乗りシステムの開発と構築を提案したい。

5. 今後の展望

最後に、今後の展望を 2 つ提示する。1 つ目は、段階的にスーパーマーケット、病院等目的地を増加させることで全八王子市民の足となることを望む。2 つ目に広告収入の活用である。将来的に顧客数が増加した場合、タクシー会社と運営会社の運営費の一つとして企業広告を掲示することで持続可能な運用を可能とさせたい。広告はタクシー本体に広告をプリントするような形を想定している。以上の提案を実現することで市民の公共交通への不満を軽減するだけでなく、SDGs 目標 11 の「住み続けられるまちづくり」の実現を通して、都市としての八王子の価値を高めることにつながると考える。

6. 参考文献

- ・国土交通省「タクシー事業の現状について」（閲覧日：2023 年 9 月 27 日）
<https://onl.sc/HGKHz3n>
- ・国土交通省「交通の健康学的影響に関する研究 I」（閲覧日：2023 年 9 月 27 日）
<https://www.mlit.go.jp/pri/houkoku/gaiyou/pdf/kkk55.pdf>
- ・八王子市（閲覧日：2023 年 9 月 27 日）
<https://onl.sc/3iDF28T>
- ・八王子市（閲覧日：2023 年 9 月 27 日）
<https://onl.sc/QjPgPhK>
- ・AI オンデマンド交通（mobi）の実証運行について（閲覧日：2023 年 9 月 27 日）
<https://onl.sc/WwhkhCh>